

○大豆の莢がはじけにくい品種を導入することで、収量向上につながる可能性があります。

背景・ねらい

- 国内の大豆品種の多くは莢がはじけやすく、収穫適期をすぎると種子が地面にこぼれる危険性がある。
- また、乾燥が進むとコンバイン収穫の際にヘッド部分が植物体に触れた瞬間に莢がはじけてしまう種子も少なくない。
- 農研機構で開発した莢をはじけにくくした品種を導入することで、大豆の収量向上につながる可能性がある。

効果と留意点

- ◆刈遅れを想定した自然裂莢による脱粒損失が少ない。
- ◆難裂莢性を備えているが、長期間圃場で放置すると品質劣化につながる。
- ◆販売先・実需者との品質評価が必要である。

詳細情報

農研機構「大豆難裂莢品種群標準作業手順書」
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/naro/sop/135016.html

資料作成協力：農研機構

表 大豆難裂莢品種群の生育・品質の特性

品種名	成熟期	花色	小葉の形	主茎長	伸育型	粒大	種皮色	臍色
サチユタカA1号	中の晩	紫	鋭先卵形	中	有限	やや大	黄白	黄
フクユタカA1号	晩	紫	鋭先卵形	やや長	有限	中	黄白	淡褐
えんれいのそら	中	紫	鋭先卵形	中	有限	やや大	黄	黄
ことゆたかA1号	中の晩	紫	鋭先卵形	中	有限	やや大	黄白	黄
里のほほえみ	中	白	鋭先卵形	中	有限	かなり大	黄白	黄

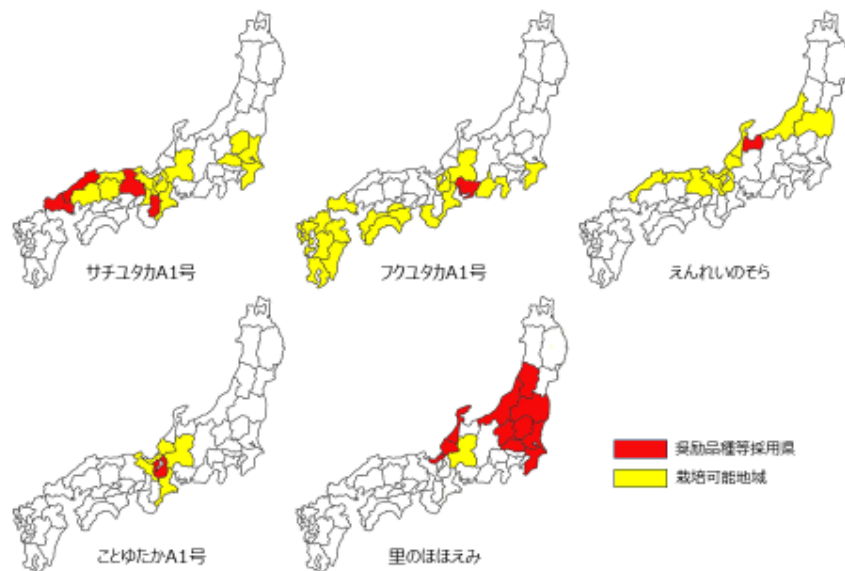


図 各難莢品種の奨励品種等の採用県と栽培可能地域 (2022年3月)